

平成23年度 傾斜的研究費（全学分）学長裁量枠 成果報告書

研究費区分		③研究環			
研究代表者 所属	人文科学研究科・社会行動学 専攻・社会学分野	フガナ 研究代表者氏名	タmano カズシ 玉野 和志	職	教授
研究分担者 所属	人文科学研究科・社会行動学専攻・社会学分野	研究分担者氏名	宮台真司	職	教授
	中央大学・法学部		中澤秀雄		教授

研究環 組織名	グローバル化の下での都市と国家の再編成	
HP	http://www.ne.jp/asahi/tamano/hp/	
研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。） 本学HPでの公開の可否 可 ・ 否		

2011年5月13日(金)に、ソウル国立大学のパク・ベギョン氏を迎え、国際講演会を開催した。講演会のテーマは「グローバル化の下での都市と国家の再編成」であり、パク氏の講演内容は「東アジア開発主義国家におけるスケール間の緊張とリスケーリング——韓国の地方分権改革における中央・地方の対立と政治過程」と題して、リスケーリングの議論を韓国の放射性廃棄物処理場の建設をめぐる紛争に適用し、東アジアの開発主義国家においては、欧米とは異なるリスケーリングの議論が必要であることが提起され、当日はこの点についてフロアを含めた活発な議論が行われ、大きな成果を上げることができた。また、翌14日と15日に山口大学で開催された地域社会学会大会のシンポジウムでは、玉野が司会をつとめ、パク氏を含めた3人の報告者による討論が行われ、リスケーリング論に関する基本的な理解を学会の共通認識とすることに貢献することができた。

13日のパク氏の講演に引き続いて行われたワークショップにおいては、TMUリスケーリング研究会の結成が提起され、本学を含めた8大学1研究機関にわたる30名あまりの研究者および院生の参加によって研究会をスタートさせることができた。

7月23日(土)には、第1回のTMUリスケーリング研究会が開催され、リスケーリング論の日本への適応可能性についての検討が行われた。その場で、ヨーロッパでリスケーリングの議論が登場してくる背景としての地方自治体を中心とした経済成長戦略に関する基本的な理解が必要であることが確認され、新しい都市政策と都市政治に関する研究(New Urban Politics)について関心のあるメンバーが別途サブ研究会を組織することが決定された。

その後、9月11日(日)にサブ研究会を開催し、各自の関心にもとづく作業分担と文献情報の共有の仕方について検討を行った。次いで11月5日(土)には第2回のTMUリスケーリング研究会を開催し、アジア経済研究所からの参加者に東南アジアの状況についてご報告をいただいた。欧米や東アジアとも異なる東南アジアの事情を知ることで、資本主義発展の時期と国家の官僚機構や制度上の成熟度によってリスケーリングの議論が適用できる度合いが異なってくるということが明らかになった。

さらに、12月22日(木)には第2回のサブ研究会が開催され、New Urban Politicsに関する欧米における最新の状況を確認するとともに、日本における現状と課題に関する議論が行われた。なお、2012年1月28日(土)には今年度最後の第3回TMUリスケーリング研究会が開催される予定で、リスケーリング論が要請されたヨーロッパの現実について、具体的な紹介が行われる予定である。

平成23年度 傾斜的研究費（全学分）学長裁量枠 成果報告書

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）		本学HPでの公開の可否 可 ・ 否			
Bae-Gyoon Park（「東アジアの開発主義国家におけるリスケーリングとスケール間の緊張関係：韓国での中央－地方間の緊張関係と分権化をめぐる政治」，地域社会学会大会シンポジウム，2011年5月）					
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）		本学HPでの公開の可否 可 ・ 否			
「都市研究の転換と家族・コミュニティ論の課題」，玉野和志，『社会学評論』，2012年3月発刊予定 「日本におけるリスケーリング研究の可能性をめぐる」，玉野和志，『地域社会学会年報第24集』，2012年5月発刊予定 「東アジアの開発主義国家におけるリスケーリングとスケール間の緊張関係：韓国での中央－地方間の緊張関係と分権化をめぐる政治」，パク・ベギョン，『地域社会学会年報第24集』，2012年5月発刊予定					
学術会議開催実績報告					
首都大学東京国際講演会「グローバリゼーションの下での都市と国家の再編成」，2011年5月13日 TMUリスケーリング研究会 第1回会合，2011年7月23日 TMUリスケーリング研究会 第2回会合，2011年9月11日 TMUリスケーリング研究会 サブ研究会，2011年12月22日 TMUリスケーリング研究会 第3回会合，2012年1月28日開催予定					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
平成22年～24年度科学研究費補助金基盤研究（C）「グローバル・シティ・リージョンズとしての日本都市の現状と可能性に関する研究」，研究代表者：玉野和志，採択					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
研究分担額					
研究代表者・分担者名	所属			金額（円）	
玉野和志	人文科学研究科・社会行動学専攻・社会学分野			1,380,000	